

## 1 令和3年度の成果と課題

国語においては、活用で目標値を下回る学年があった。中でも特に、資料を読み取って自分の考えを書いたり、自分の意見を支える理由を明確にして書くことに課題が見られた。そのため日常の授業の中で、書く活動を意識的に取り入れ、説明文や物語文を扱う際には、なぜそう考えたのかや、資料のどの部分に書いてあるのかを確認しながら進めていく必要があると考える。また、それぞれの意見や考えを聞きあう活動を通して、まずは自分の考えをもち、互いに伝え合う力や学びを深める力を培う必要があると考える。

## 2 今年度の調査結果の分析

### 「話すこと・聞くこと」

発表や話し合いの内容を聞き取る問題で目標値を下回る 学年があった。

### 「読むこと」

物語、説明文ともに目標値を下回る学年があった。特に、説明文の内容を読み取る問題で目標を下回る学年が2学年あった。

### 「書くこと」

2学年が目標値を下回った。普段から文章を書くときには、段落を意識させたり、自分の考えと理由を明確にして書くように意識させたりする必要がある。また、自分の考えをもつことが難しく、文章が書けない児童もいるので、考えを交流する場面を増やしたり、短い文章から書くことに慣れさせたりする必要がある。

### 「漢字を読む」「漢字を書く」

前年度までの漢字を正しく書くことができている児童が多く見られた。習熟のための練習が身に付いているためと思われる。更に日常的に、習った漢字を用いて文章を書くことを意識させ、定着させていく必要がある。

## 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

### ○話の内容を正確に聞き取る力を養う。

**低：**「話の聞き方」等を掲示し、最後まで話が聞けるように意識させる。

**中：**話の聞き方を繰り返し指導し、聞く姿勢の習慣づけを図る。

**高：**話の聞き方の基本、効果的なメモの取り方、目的意識をもって話を聞く姿勢について指導する。

### ○書く力を高めるために文章の構成力をつける。

**全：**各学年とも、年間を通して「書くて楽しいね」に取り組む。

**低：**文章を読む時に文の構成を意識して読むようにさせ、書く作業を定期的、計画的に設定する。  
(絵日記、観察記録文など)

**中：**日常的に文章を書く時間を取り入れ、段落を意識させたり、自分の意見とその理由を明確にして書くことを意識させたりして、書くことに慣れさせる。

**高：**文を読むときに文の構成に気を付けながら読ませる。主語述語を用いた短作文を書かせ、文の構成に慣れ親しませる。常体と敬体の使い方に慣れるようにする。

### ○言葉の力を高めるために語彙力を付ける。

**全：**国語の教科書に掲載されている「言葉のたから箱」を活用する。

**低：**授業の中で、視写や簡単な文づくりをして正しい言葉の使い方や意味等を理解させる。

**中：**国語辞典や漢字辞典などを活用し意味調べを行う。漢字学習は家庭学習もあわせて指導し、定着を図る。

**高：**音読や読書、辞書を使う機会を増やす。学習した熟語、漢字はすぐに使えるような機会を設定する。

## 1 令和3年度の成果と課題

昨年度よりも全体的に平均点が増加傾向にあり、高学年においては全国平均に達するか僅かに下回る傾向となった。昨年度より一人1台タブレット端末が配布されたことにより、児童の多くが、タブレット端末を活用して個々の疑問をすぐに調べるといった学習習慣が身に付くという成果が見られた。

気軽に調べるといった習慣は身に付けることができているが、どの学年も目的に適した資料選びをしたり、その資料から何を読み取り、どのように課題に結び付けたりするのか、活用能力に課題があると考えられる。

## 2 今年度の調査結果の分析

### 「4年生」

基礎・活用において、目標値よりも下回る結果となった。領域別にみても多くの領域において、目標値を下回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の分析では、全て下回っているが、その中でも「思考・判断・表現」が目標値が大幅に下回る結果となった。これらのことから、課題に対して深く考え表現することを苦手としていることが分かる。

### 「5年生」

基礎・活用において、目標値よりも上回る結果となった。唯一、「伝統や文化、先人の働き」の領域において、目標値を下回っていた。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の分析でも、全てを上回っているが、その中でも「思考・判断・表現」が目標値と同じ値となった。これらのことから、課題に対して深く考え表現することを苦手としていることが分かる。

### 「6年生」

基礎・活用において、目標値よりも下回る結果となった。特に「資料活用能力」に課題が見られる。「産業と情報との関わり」の領域においては、目標値を5ポイント上回った。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の分析では、全て下回っているが、その中でも「思考・判断・表現」が目標値が大幅に下回る結果となった。これらのことから、課題に対して深く考え表現することを苦手としていることが分かる。

## 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

### ○課題に適した資料やグラフを選択し的確に読み取らせ、活用する能力を身につける。

**中:** 今までの資料集や地図等を使った資料を読み取るときに、視点を与え目的に合った資料やグラフが何かを考えさせたり、選んだ資料やグラフを適切に読み取らせる活動を盛り込む。タブレット端末での学習によって、場所と方位をすぐにその場で確認させたり、地形の様子などを読みとらせたりして資料に触れ、活用する機会を増やす。

**高:** 今まで通り、手軽な地図帳や資料集の活用とともに、複数の資料から内容や目的、背景等を読み取る活動を多く取り入れる。特にタブレット端末を効果的に活用し、今必要な資料を取り出したり、情報について考えたり話し合ったりする活動を増やし、資料活用の体験を増やす。場所や細かい情報がわからないときは地図で確認したり、資料を活用したりする習慣も今まで通り大事にしたい。

### ○「資料活用能力」を向上させる。

一つの資料だけでなく、複数の資料から読み取る経験も増やすことを念頭に取り組み、タブレット端末の導入によって多くの資料に触れることができた。また、そこからこの資料は何を目的に作られており、その資料のどの部分を読み取る力の育成にも役立つものと考えられる。地図を読み取る場面では、地図記号や方位がわかるようにすることが課題であったが、授業の中で地図帳を開き活用する機会だけでなくインターネット上の地図を学習に生かし、記号を基にした記載方法を理解させる。さらに今までのように、地図をもとに考察したり土地の様子を推察したりできるように指導していく必要がある。

### ○「社会的な事象についての知識・理解」を深める。

教科書だけではなく、近隣の公共施設を利用したり、タブレット端末を活用したりする。社会科の学習をより身近なものとの認識につなげるため、自分たちの生活と関連付けたり、学んだ言葉や仕組みをまとめたりする活動を通して、知識、理解の定着をはかるよう指導する。

## 1 令和3年度の成果と課題

習熟度別の指導を行った効果があり、教科の目標値や、項目別の目標値を上回る結果を得られた。一方で、単学級の学年は、習熟度別指導を2展開しかできないため、苦手さを持つ児童への授業中の指導に難しさもある。抽象的な学習内容については、できるだけ具体的なものに置き換えて指導したり、既習学習との関連性を気づかせながら学習を積み上げていく必要がある。

## 2 今年度の調査結果の分析

教科の目標値において上回る学年が前年度より増えた。学年によって区内平均を上回ることもできた。項目別でも目標値を上回ることができるものもあった。抽象的な口を使って立てる式、分数を数直線に表したものを読み取る、面積の求め方といった項目において、目標値を下回る結果も見られた。

### 「数と計算」領域

分数において、1が分子の幾つ分になるか数直線上で分数の大きさを比べたり、分母・分子に同じ数を乗除してできる数が元の分数と同じ大きさを表すこと等につまずきが見られるので、具体物を用いたりしながら、分数の感覚をつかませ定着させていく。

### 「量と測定」領域

基本的な数量をイメージできるものをもたせ、場面に応じた測定ができるようする。

### 「図形」領域

図形の性質を理解したり、特徴を捉えたりすることや、図形に対する見当をもつことにつまずきが見られる。図形の構成要素に着目して考えさせ習熟させていく。

### 「数量関係」

求められている数値を正確に把握し、その為に必要な条件を整理して考える力を育てていく。

「主体的に学習に取り組む態度」は、学年が上がるにつれて、低くなる傾向があり、興味関心を引き出せるような工夫をしていく。

どの学年にも共通しているのは、「思考・判断・表現」が全国及び区に比べ低い。簡単な問題から取り組ませ、考える経験を積ませしていく。

## 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

### ○数の仕組みや概念の理解を高める。

**低:** ブロックなどを用いた操作等の作業を取り入れ、数の概念を身に付ける機会を増やす。10進位取り記数法を理解させる。

**中高:** 小数や分数などは、紙テープや数直線などで視覚化し、具体的なイメージが身につく機会を設定する。

### ○加法、減法、乗法、などの計算の定着を図る。

**低:** ブロックを使って具体的に操作して、計算の仕方を身に付けさせる。繰り返し計算練習させることで習熟を図る。タブレットの「学びポケット」を家庭学習に取り入れ、計算力の定着を図る。

**中:** ドリルやプリントを通して繰り返し計算練習する機会を設定する。

**高:** 基本になる計算の仕組みを捉えさせる。練習問題を多く提示し、定着を図る。

### ○量と測定の単位に対する量感を実感させる。

**低:** 具体物(ペットボトルや牛乳パック、定規など)の日常的に目にする量から、もとになる量のイメージをつかみ、

理解・習熟を図る。特に時計については、日常的に読む習慣をつけさせる。

**中・高:** 量や数の意味を考え、必要な数量を求めるための条件や要素に注目させ、定着につなげていく。

### ○数量関係や図形の理解の定着を図る。

**低:** 定規をしっかりと押さえ、何度も線を引かせ慣れさせる。また、色板など使いながら、形について理解を深めさせる。

**中:** 簡単な数量を数直線で表したり具体物を用いて比較させたりする。□を使った立式については、具体的な数を用いた式から、抽象的な□を使った式に置き換えた例題などを示しながら、理解につなげていく。図形の性質を調べ、構成要素と比較させて実感につなげさせる。その上で、特徴を考えながら作図させる。コンパスや分度器の使い方を、できる限り細かく指導していき、使えるようにさせていく。

**高:** 問題文を正確に読み取り、数量関係を式・図・数直線を用いて考える機会を多く設定する。

## 令和4年度 理科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

### 1 令和3年度の成果と課題

児童は身の回りの自然や事象に対する興味・関心が高く、実験や観察にもとても意欲的に取り組んでいる。しかしながら、実験や観察には楽しく取り組むものの、その実験・観察から得られた結果をもとに考察したり、まとめたりすることに苦手意識をもつ児童が多く見られる。さらに、学んだことが知識・理解として十分に定着していないことも課題である。

### 2 今年度の調査結果の分析

#### 「4年生」

基礎・活用ともに、正答率の平均が目標値と同程度であった。問題別に見ると、「身近なしぜんのかんさつ」、「こん虫の育ち方」などでの選択式の基礎的な問題、さらに「じしゃくのせいしつ」での記述式の問題で誤答が目立った。

#### 「5年生」

基礎・活用ともに、正答率の平均が目標値を上回り、特に活用では目標値を大きく上回った。問題別に見ると、「電気のはたらき」、「月と星」などでの基礎的な問題における誤答が目立った。

#### 「6年生」

基礎では正答率の平均が目標値を下回り、活用では上回った。領域別に見ると、「生命・地球」領域ではある程度の成果が見られたが、「物質とエネルギー」領域では目標値を大きく下回った。

### 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

**○観察や実験において、一人一人が体験できる機会を増やす。**

**中:**生き物の観察や飼育、栽培などの直接経験の機会を充実させ、実際に見たり触れたりすることで、身の回りの自然や事象に関する興味・関心を高めるとともに、実感を伴った理解へとつなげていく。実験においては、一人一人が作業できるようにし、主体的に学習に取り組めるようにするとともに、実験の基本的技術を身に付けられるようにする。

**高:**実物や実際の映像を用意したり、グループを少人数化など実験・観察の環境を整えたりすることで、児童一人一人が実験や観察の目的や手順を明確にした上で、主体的に学習に取り組めるようにする。また、「問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察」の過程を丁寧に扱うことで、自分なりに考えをもち、確かめ、自力解決する力を育成していく。

**○スモールステップで学習内容の確かめや振り返りを行う。**

**中・高:**こまめに小テストを行うことで、スモールステップで学んだことを身に付けられるようにする。また、単元の終末で学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるようにする。

**令和4年度 音楽科授業改善推進プラン**

大田区立東蒲小学校

**1 児童の課題**

- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーなど楽器演奏の習熟に差がある。
- ・音楽の拍の流れを感じ取ることが難しい児童がいる。リズム感到に乏しい。
- ・正しい音程やきれいな声で歌うことが難しい児童がいる。
- ・曲想を生かした表現にまで至らないことが多い。
- ・鑑賞では、感じたことを表現する語彙に乏しさが見られる児童もいる。もっている語彙力に差がある。

**2 授業改善のポイント及び改善策**

**○基礎的・基本的な楽器の奏法の習熟を目指す。**

**全:**技能の習得が難しい児童には個々の目標を設定し、個別学習の時間などを設け、必ず達成させる。一人一人のつまずきや課題に対して、具体的な声掛けや解決策を提示し、丁寧な個別指導を行う。また、児童同士の教え合いの場を設ける。

**令和4年度 図画工作科授業改善推進プラン**

大田区立東蒲小学校

**1 児童の課題**

- ・細かい作業が苦手であり、指先などをうまくつかえない児童がいる。
- ・表現したいものが思いつかず、制作に取りかかるのに時間がかかる児童がいる。
- ・絵の具での着色がうまくいかず、苦手意識をもっている児童がいる。
- ・表現活動の途中で集中力が切れ、作品の完成度を高めることができない。

**2 授業改善のポイント及び改善策**

### ○道具の使い方など、技能の習得を目指す。

**全**:道具の基本的な使い方をICTを取り入れながら、視覚的に分かりやすく指導する。絵の具の使い方の基礎基本をしっかりと身に付けることができるよう使用時の確認と使い方の掲示をする。

### ○発想・構想の能力を高める。

**全**:参考作品や材料との出会い方(導入)を工夫する。制作手順や資料などを提示し、見通しをもたせる。

**低**:様々な素材に触れる経験を増やし、表現方法の幅を広げさせる。

**中**:自分のイメージや思いを広げられるような技法や資料の提示を行う。児童の発言やアイデアを共有できるようにする。

**高**:自分のイメージや思いを広げ、深められるような技法や資料の提示を行う。ワークシートを活用し、表したいことをどのように実現できるか考えさせ、制作の見通しをもたせる。

### ○作品を最後まで完成させる粘り強い力を身に付ける。

**全**:児童の活動を価値付けできる声かけをし、作品の完成した姿を見据え目標をもって表現活動ができるようにする。製作途中の作品鑑賞を取り入れ、作品の完成度を高められるようにする。

## 令和4年度 体育科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

### 1 児童の課題

- ・ボールを投げる経験が少ない。(特に野球で使うような小さなボール)
- ・自分の体を支えることができない。(ぶらさがり、伏臥姿勢等)
- ・自分の体を回す運動が苦手な児童が多い。(鉄棒、マット運動等)
- ・きまりを守ったり、勝敗を素直に受け入れたりすることが苦手な児童がいる。
- ・思考力・判断力が乏しく、運動の工夫がなかなかできない。
- ・柔軟性、筋力、持久力に課題がある。(持久走、シャトルラン等ですぐにあきらめてしまう)

### 2 授業改善のポイント及び改善策

○自分の体を支えるための運動を取り入れ、運動が苦手な児童の指導を工夫する。

**低**:器械・器具を使つての運動遊びで、多様な運動感覚を身に付けさせる。休み時間も使う。

**中**:ラダーやボール、平均台、肋木等、多様な動きを取り入れた運動をさせる。

**高**:自分の体重を支えるだけの筋力、バランス力をつけさせるため、力試しの運動やコアディネーショントレーニング、体づくり運動等を適宜取り入れていくようにする。

○運動量を確保し、運動の工夫に努める。

**低**:工夫の仕方を何通りが分かり易く例示し、楽しさを実感させながら、実践させる。また、授業の時間だけでなく休み時間などにも積極的に取り組ませる。

**中**:体の動かし方やコツがわかる授業を行い、振り返りカードなどで学習を振りかえさせ、課題・めあてをもって運動に取り組めるようにする。また、評価と反省をその都度行い、次時につなげる。

**高**:授業の中では、特に学習カードを活用し、個別の課題の設定や評価につなげていく。また、児童同士の教え合いの場を設定し、児童一人一人の運動量を確保する。

○ゲームなどで思考力・判断力などを身に付け、ボールの操作などの技能の習得を目指す。

**低**:多種のボールゲームを通し、楽しみながらボール操作ができるようにさせる。

**中**:運動技能面だけでなく、技能面を更に磨きをかけるための術を考えさせる。タブレットを使った動画で振り返りながら、各運動のコツや上手になった理由、上手になりそうな具体的方法などを気づかせる。

**高**:ボールゲームとともに、基礎体力を身に付ける縄跳びや走・跳の運動につながる動きを体育だけでなく日常的に取り入れていくようにする。また体育の時間だけでなく休み時間などでも積極的に外で遊ぶように指導する。

## 令和4年度 家庭科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

## 1 児童の課題

- 生活経験に差があり、裁縫道具やミシンの扱い方、調理器具の使い方など道具についての知識や、作品や調理の完成までの見通しの立て方に個人差が大きい。
- コロナの影響で、調理実習については手順や工程を確認するのみで実習ができていない。

## 2 授業改善のポイント及び改善策

### ○用具の使い方の習得を目指す。

- ミシンや調理器具の基本的な扱い方を実習を通して把握させるため、扱う場面を増やす。
- 実習の機会を設ける。

### ○他の教科等と関連付けて、指導に工夫する。

- 児童の日常生活と関連付けながら学習を進める。また、社会や理科の学習内容とも照らし合わせ、関連付けて指導することにより、興味や関心を高めていく。

### ○学校でできなかった実習

- 夏季休業期間を利用し、できる範囲で家庭学習に取り組む。また、目的に応じた調理方法についての理解を深める場面を設定し、思考しながら調理することに取り組めるように家庭と連携を図る。

## 令和4年度 生活科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

## 1 児童の課題

- ・日常生活において、虫や小動物等とかかわる経験が少ない。
- ・じっくりと観察をすることが難しい児童が多い。
- ・活動はするが、観察カードや記録カードにうまくまとめられない児童がいる。
- ・活動の制限があり、活動に広がりを持たせることが難しかった。

## 2 授業改善のポイント及び改善策

- ・五感を使って実物にふれさせる機会を増やす。
- ・四季を通して、動植物を継続して育て、成長や変化に気づかせる。
- ・観察する視点を明確にし、どの部分をよく見ればよいかをはっきり示す。また、例を示し、具体的にどのようなことを書いたらよいかイメージさせる。
- ・観察カードに記録する際は、全体を描くのではなく、部分をよく見て描くようにする。
- ・コロナ禍でもできるふれあい活動を取り入れ、学校や地域の人とのかかわりを増やす。

## 令和4年度 外国語科(英語)授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

## 1 児童の課題

- ・自信がもてないことから、積極的に外国語に触れようとする子が少ない。
- ・全体的に聞き取りに関する内容に課題がある。日常会話において内容を理解できない。(誕生日・好きな教科・買い物場面・道案内)
- ・英作文において、基本的な表現を用いて「自分と相手との関係性」を表現したり、「自分ができる事」等の表現に課題がある。

## 2 授業改善のポイント及び改善策

- ・ ALTが話した内容を児童が理解しているかを確認して、必要に応じて担任が日本語で補佐する等、児童が外国語の指示を聞いて主体的に学習に参加できるようにする。
- ・ ネイティブな英語においては、ALTに任せ、担任と連携を図る。
- ・ 児童が使う英語が他者に通用するという達成感を味わえる学習展開にする。
- ・ 児童が外国語活動に対する苦手意識を無くし、ローマ字やアルファベットを習得できるよう、掲示物等で外国語に触れる場面を増やし、学習活動が主体的に取り組める身近な内容のものを取り入れる工夫をする。
- ・ 外国語担当が連携を図り、外国語教材の充実を図り、ALTと担任とで授業の計画について打ち合わせをする。
- ・ 授業の最後に振り返りを行い、1時間の中で何ができるようになったのか、学習の成果を残せるようにする。